Beyond KUSS , 2024 !!

卒業研究、第 1 志望

7 月 4 日(火)、卒業研究最終発表会、おつかれさまでした。代表者は 13 日(木)に神戸大学出光佐三記念六甲台講堂での発表もあります。10 回生が最高の発表者であり、最高の聴衆であることを期待します。

夏至も過ぎ、7 月に入り蒸し暑さも相当です。また、梅雨の後半になり、突然の雨・豪雨の心配も毎年のようにあります。このような夏季休業直前の今、体調管理に気を配り、自分の気持ちを整理し、「第 1 志望」を確認し、夏季休業に向けての学習計画を進めましょう。

10 回生のみなさんは、「KP」にどんな思い出があるでしょうか。1 回生以来、本校卒業生は全員が取り組んでいます。卒業後何年もたってから、先輩や後輩、同級生と「KP」の話題になるかもしれません。それは他校では経験できない本校の「伝統」かもしれません。10 回生は「4 学年協同ゼミ(3456KP)」がスタートした際、3 年生として参加しています。つまり、10 回生は「4 学年協同ゼミ」にフル参加した初めての学年です。「KP」の新たな歴史を作ってきた学年とも言えます。

本校は卒業研究を全員に課します。これは本校を設置する神戸大学が強く求めたプログラムです。なぜ、神戸大学は卒業研究を求めたと思いますか。2 つの理由があります。

理由の 1 つは、「大学で学ぶ力」を本校卒業生に求めたからです。神戸大学の学生は非常に優秀です。しかし、それは大学受験で得点するという意味です。「大学で学ぶ力」を十分に有しているかというと必ずしもそうではありません。神戸大学でも新入生に対し、「大学で学ぶ力」を育成するため様々なプログラムを提供していましたが、大学での学びにうまく転換できない学生が一定数以上いました。そのような状況を打破するため、リサーチリテラシーを身につけて大学に進学する学校を設立することにしました。

もう 1 つの理由は、ミスマッチを発生させないためです。神戸大学の新入生のうち、神戸大学での学びを希望していない、入学した学部・学科での学びを希望していない者が一定数いました。そのようなミスマッチが生じないよう、ひとりひとりの生徒が大学で学びたい内容をしっかりと認識するため、卒業研究を課しています。それが本校の進路指導の基本的な考え方、「第 1 志望」設定の支援、「第 1 志望」突破の支援につながっています。

特別選抜への出願を考えている人たちへ

卒業研究を利用し、国公立大学の特別選抜(総合型選抜、学校推薦型選抜)に出願する人が多いことは、本校の特徴です。国公立大学合格者の約 3 分の 1 が特別選抜合格者です。特別選抜合格者の多くが、難関国立大学であることも特徴かもしれません。

本校の進路選択に向けての動きが、卒業研究に取り組むことにより、将来の目標、大学での学びをしっかりと考え、「第 1 志望」を設定することを理想型の 1 つとしています。そのような本校での学びの経過からすると、難関国立大学への特別選抜出願が多いのは当然かもしれません。

本校の国立大学特別選抜受験者の特徴は、No_11(0615)で紹介しています。

注意してほしいのは、「特別選抜に出願しなければならない」のではありません。「第１志望」の大学で特別選抜を実施している場合、出願するかどうかを考えるのです。「どの大学でもいいから特別選抜に出願する」ということは勧めていません。特別選抜が合格しやすいわけでもありません。実際に、過去３年間の国公立大学特別選抜合格者と一般選抜合格者の「K 値」を比較すると右表のようになります。合格者の成績状況に大きな差がないことがわかります。また、特別選抜に出願したけれど合格できない人がたくさんいることも十分に理解してください。

省略

当然のことですが、特別選抜では受験生を多面的に評価するため、出願書類の作成に非常に時間がかかります。だから、ぜひとも進学したい「第１志望」の大学・学部・学科でないと出願そのものが難しいし、合格はさらに難しいです。「第１志望」の大学・学部・学科の志望理由を説明できますか。自分がこれまで取り組んできたことを説明できますか。そこで学びたいという強い意思と自分がそこで学ぶことにふさわしい人材であることをアピールすることが必要です。そして、その大前提として一定レベル以上の受験学力が必要です。一芸で合格できるようなものではありません。

省略

右図は過去 3 年間の「K 値」を軸とした国公立大学特別選抜の合否状況です。受験学力は必要ですが、受験学力順に合格するわけではないことがよくわかります。

また、出願・受験すれば合格できるわけでもありません。特別選抜への出願を考える人は、マイナス面も十分に理解したうえで出願準備を進めてください。安易な気持ちでなく、自分自身が覚悟を決めて特別選抜にはチャレンジしてください。

「滑り止め」的な出願はマイナスの影響が大きすぎます。特別選抜の出願は、チャレンジが原則です。チャレンジする、合格したら大喜びできる、だから負担の大きい準備も受験勉強に全力で取り組みながら進めることができるという気持ちを大切にしましょう。

特別選抜への出願、本当の意味での「第１志望」へのチャレンジです。特別選抜への出願を考えているみなさん、今一度、自分の出願がプラスに働くかをよく考え、先生方と相談し、出願に向けての準備を進めてください。